

令和3年度 学校評価（総括評価表）

徳島県立鴨島支援学校 N o 1

重点課題	重点目標	評価指標	評 価		学校関係者評価 (学校関係者の意見)
			評価指標による達成度	自己評価	
◆児童生徒一人一人を大切にし、その個性や能力に応じて自己実現を目指す教育の推進	<小学部> ・児童の個性の伸長や自己実現につながる指導の専門性を高める。	①年10回以上、学部研修会を実施する。 ②年間3回以上、研修会の成果についてホームページで発信する。			(所見)
		活動計画 ①-1 学部会の後の時間等を活用し、計画的に研修を行う。 ①-2 学部の教員が一人1回以上研修リーダーとなり、自分が担当する児童の指導に必要な知識及び個性の伸長や自己実現につながる内容を精選して研修を行う。 ②効果的だと思われる指導方法等については、ホームページに掲載することで、より客観性を持たせる。	活動計画の実施状況		

徳島県立鴨島支援学校 N o 2

重点課題	重点目標	評価指標	評 価		学校関係者評価 (学校関係者の意見)
			評価指標による達成度	自己評価	
◆安心安全な教育環境の整備と危機管理の推進	<小学部> ・安心安全な学習環境の整備を行うとともに、想定されるリスク回避や緊急時の対応ができるように教員の危機管理能力を高める。	①各教室における安全点検チェックリストを作成し、リストに基づき毎月1回安全確認を行う。 ②年間3回以上、リスク回避や緊急時の対応に関する緊急対応訓練を実施する。			(所見)
		活動計画 ①-1 年度当初、学部の教員全員で小学部内を回り、想定される危険箇所について共通理解を図っておく。 ①-2 学部会において教員間で注意喚起や共通理解を図る。 ①-3 毎月最終金曜日を「安全確認の日」にして、チェックリストをもとに安全確認を行う。 ②緊急時の想定に基づき、学部における緊急対応訓練を計画的に行う。	活動計画の実施状況		
	<特別活動課> ・防災学習を通して、災害時における児童生徒の主体的な安全確保の能力向上を図るとともに、地域住民との交流を図り、非常時に協力や連携ができる基盤を作る。	評価指標 ①各学部で防災学習を年間2回以上実施する。 ②年間1回、生徒による学校周辺住民への啓発活動を行うことで、周辺地域が土砂災害特別警戒区域であることを再認識してもらう。	評価指標による達成度	自己評価	
		活動計画 ①各学部の児童生徒の実態に応じて、主体的	活動計画の実施状況		

に活動できる学習内容を工夫・検討する。
 ②学校で作成した周辺地域の防災情報リーフレットを、「総合的な学習（探求）の時間」の授業で学校周辺の住民に配付する。

重点課題	重点目標	評価指標	評価		学校関係者評価 (学校関係者の意見)
			評価指標による達成度	自己評価	
◆研修の充実と教員の専門性の向上	＜中・高等部＞ ・来年度の特別支援教育学会分科会発表に向けて、遠隔による交流学習の継続及び研修による内容の充実を図る。	①遠隔による交流学習(学校と吉野川市役所及び札所)を年間7回以上実施する。 ②分科会の助言者による指導を3回受ける。			(所見)
		活動計画 ①2ヶ月に1回程度、遠隔交流を実施し、振り返りと改善を行いながら、次回に生かしていく。 ②指導助言を受けたことを発表内容に盛り込みながら資料作成に取り組む。	活動計画の実施状況		
	＜教務課＞ ・道徳科の評価文例集の周知を行い、「個別の指導計画」の評価の際に活用されるようにする。	①アンケートを1学期と年度末の2回実施し、道徳科の評価文例集を「使用した」という回答が、1学期より年度末の方が10%以上、上回る。			
		①「個別の指導計画」の評価の時期に、職員朝礼等で周知するとともに、評価文例集を積極的に活用するよう呼びかける。	活動計画の実施状況		
	＜研究課＞ ・外部講師から指導・助言を受ける機会や研修会を充実させることで、自立活動や各教科等に関する知識や経験を深め、専門性の向上を図る。	①外部講師から指導を受けた児童生徒の担当教員を対象に、1月にアンケートを実施し、8割以上の肯定的評価を得る。 ②外部講師を招聘した研修会や、校内における様々な障がい種別や自立活動に関するミニ研修会を10回以上実施する。			
		①-1 社会人講師による直接的な指導を受けた後、話し合い（フィードバック）の時間を年間2回ずつ設ける。 ①-2 県の「特別支援学校コンサルテーション事業」を活用し、外部の専門家に指導・助言を受ける機会を設ける。 ②-1 理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、大学教員を招聘し、自立活動や各教科等に関する研修会を4回実施する。 ②-2 国立特別支援教育総合研究所が制作した「NISE学びラボ」の動画を活用したミニ研修会を6回以上実施する。	活動計画の実施状況		

<p><情報視聴覚課> ・教員のICT活用能力を向上させることで、在宅訪問や病棟訪問の児童生徒への学習支援にテレビ会議システム等を多く活用し、実体験的に授業や学校行事等へも参加できるとような学習体制を整えることができるとともに、各種研修会や会議にもWeb上で個々に参加することができる。</p>	<p align="center">評価指標</p> <p>①-1 ICT機器や支援機器等の活用に関するグループ研修や自己研修の機会を年間7回以上設定する。 ①-2 在宅や病棟の児童生徒が、児童生徒個人に貸与されたタブレット端末を活用し、テレビ会議システム活用した取組を3回以上行う。 ②夏季休業中に、テレビ会議システムを活用した研修会を開催する。</p>	<p align="center">評価指標による達成度</p>	<p align="center">自己評価</p>	
	<p align="center">活動計画</p> <p>①-1 ICT機器の操作研修や支援機器の製作研修、アプリケーションソフトの活用方法等についての校内研修を実施する。 ①-2 授業や学校行事、交流等でテレビ会議システムを使う機会を多く設け、児童生徒が積極的に参加できるよう体制を整える。 ②テレビ会議システムの研修では、教員が会議に参加する方法を習得し、またホスト操作もできるよう研修を行う。</p>	<p align="center">活動計画の実施状況</p>		

重点課題	重点目標	評価指標	評価		学校関係者評価 (学校関係者の意見)
			評価指標による達成度	自己評価	
<p>◆保護者・地域及び関係機関との連携・協働による「地域とともにある学校」づくり</p>	<p><中・高等部> ・吉野川市役所1階ロビーに生徒の作品や制作の様子の写真パネルを設置し、地域の方に本校の取り組みへの理解を広めていく。</p>	<p>①1か月に1回、作品及び写真パネルを置き換える。 ②-1 アンケートの「本校のホームページを見たことがありますか」という質問に対する「はい」の回答が、年度当初に比べて年度末に1割程度増える。 ②-2 遠隔交流の様子を年間5回以上ホームページに掲載する。</p>	<p align="center">評価指標による達成度</p>	<p align="center">自己評価</p>	<p align="center">(所見)</p>
		<p align="center">活動計画</p> <p>①市役所担当の方と連携し、作品の数の確認や写真パネルの配置をしていく。 ②-1 毎月、アンケート用紙を回収し、回答を確認していく。また、ホームページにアンケート結果を掲載する。 ②-2 ホームページに遠隔交流のコーナーを作成する。</p>	<p align="center">活動計画の実施状況</p>		
	<p><特別支援教育課> ・児童生徒のキャリア・パスポートを作成することで、児童生徒の自己理解を促し、本人や保護者のニーズを把握するとともに、放課後等デイサービス事業所や就業体験先と</p>	<p align="center">評価指標</p> <p>①-1 1学期中に児童生徒全員のキャリア・パスポートを作成する。 ①-2 年度始めに進路希望調査を実施するとともに、保護者との懇談を年2回以上実施し、保護者のニーズを把握する。 ②個別の教育支援計画(様式4 関係機関を含</p>	<p align="center">評価指標による達成度</p>	<p align="center">自己評価</p>	

	<p>の連携をすすめ、切れ目ない進路支援の充実を図る。</p>	<p>む支援計画)を、児童生徒が利用している放課後等デイサービス事業所に提供したり、就業体験先の施設等へ情報提供したりすることで、教育と福祉の連携を密にする。</p>			
		<p style="text-align: center;">活動計画</p>	<p style="text-align: center;">活動計画の実施状況</p>		
		<p>①-1 児童生徒の実態に応じた様式を作成し、授業の中で教員と一緒に作成したり、家庭に持ち帰って保護者に記入してもらったりする等、計画的に作成する。</p> <p>①-2 学年が変わる度に進路希望調査を実施するとともに、学習参観日等で保護者が来校した時に適宜懇談を行う。</p> <p>②児童生徒が利用している放課後等デイサービス事業所を定期的に訪問した時や高等部で就業体験を行うときに提供し、情報の共有を図る。</p>			